

2024

12-1月

はしかけニューズレター

2024 年度 第5号 通巻 180 号

2024 年(令和6年)12月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 西川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊
(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ
(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会
(23) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 387人

グループ数 23グループ

(2024年 11月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

日ごとに寒さがつのってまいります、皆様いかがお過ごしでしょうか。琵琶湖博物館内の木々も美しく紅葉し、見頃を迎えています。

先月は、びわ博フェス 2024 が開催され、はしかけ会員の皆様をはじめ関係者の方々のお陰様で無事にイベントを終えることができました。本当にありがとうございました。今月号では、びわ博フェスの様子を詳しく紹介しておりますので、余韻を感じながら、読んでいただけると幸いです。

以下は事務局からのお知らせです。

■びわ博フェス 2024 について

本年度のびわ博フェス 2024 を、11 月 16 日(土)～17 日(日)に無事に開催することができました。

はしかけの皆様には、ワークショップ、ポスター展示、フェスステージ発表会などご活躍いただき、盛況のうちに終えることができました。はしかけ制度の活性化や、地域との交流促進に貢献いただき、心よりお礼申し上げます。

次年度もより良いフェスを目指し、引き続き実のあるフェスが開催できるよう、努力していきたいと考えております。

■第 32 回企画展示「湖底探検Ⅱー水中の草原を追うー」について

企画展示についても、11 月 24 日(日)に無事に終了することができました。身近なようで、実は野生の姿があまり知られていない水草について、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からの展示により、好評のうちに終えることができました。ありがとうございました。

(西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 53 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■9月19日(木) FM 草津「モニロケいきいき草津」出演(1名)

FM 草津の生放送番組に出演し、活動内容等をお話しました。

■10月20日(日) 第185回定例調査

場所: 日野川、祖父川、佐久良川、法教寺川等

参加者: 17名

前日の雨から一転して晴れの中、第185回定例調査が行われました。初参加の方を含めた17名での調査となり、祖父川・惣四郎川、佐久良川、法教寺川・中津井川、日野川中流部の4班に分かれて調査を行いました。

祖父川・惣四郎川班ではオイカワ、ヨシノボリ類、カワムツのほか、タイリクバラタナゴの稚魚やカマツカ、メダカにテナガエビなどが採集されました。佐久良川班ではオイカワ、カワムツ、ヌマムツ、ヨシノボリ類のほか、シマドジョウやタモロコなども採集されました。法教寺川班は、水がない場所が多く、採集場所が限られましたが、カワムツやヌマムツ、オイカワのほか、タイリクバラタナゴやメダカ、ドンコが採集され、たまりになっている箇所ではフナの子魚が大量に採れたそうです。日野川中流部を調査した班では、他地点と同様にオイカワやヨシノボリ類等が採集されました。

前日の雨の影響で川の増水が懸念されましたが、多くの種が確認される調査となりました。ブルーギルやオオクチバスが各調査地でちらほら確認されており、影響が気になるようです。(文責: 市原 龍)

■10月27日(日) 水資源機構「お魚里帰り大作戦」(自然観察会)の支援

場所: 新浜ビオトープ

参加者: うおの会 5名、水資源機構約10名、イベント参加者約30名

水資源機構さんが管理する「新浜ビオトープ」で行われた標題のイベントにて、参加者による採集の補助、同定と計数、採れた生き物の説明を行いました。多数のフナ類、コイが採集され、その他にもワタカなど希少な魚を観察することができました。最後は魚たちを琵琶湖へと返しました。(文責: 中尾博行)

■11月16日(土) びわ博フェス

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

参加者: うおの会 13名、ワークショップ参加者約60名(付き添い保護者等含む)

11月16、17日に「びわ博フェス」が行われ、うおの会は16日午後にワークショップ「お魚キーホルダーを作ろう」を出展しました。プラバンに琵琶湖の魚を書き、トースターで加熱してキーホルダーに仕上げるものです。今年は事前準備時間が30分しかなく、また整理券配布は開始10分前からとの制約がありましたが、何とか定刻に開始することができました。

ワークショップは例年通り盛況で、3回分の整理券は早々に売り切れ。うねるプラバンを素早く取り出し、仕上げるトースター系の奮闘もあり、次々にカラフルなお魚キーホルダーが出来上がりました。参加頂いた皆さん、ありがとうございました。

(文責: 中尾博行)

■11月17日(日) 第186回定例調査

場所: 高島市の堤脚水路及び付近の水路

参加者: 17名

前日から天気が不安定で、集合時間までは時折雨が降る時間帯もありましたが、調査中はなんとか持ちこたえ、風もなく気温も寒すぎない中で調査することができました。

今回の目的は堤脚水路(湖岸堤に接して作られた、排水目的の水路)の調査。うおの会では調査記録が少なかつたため、本日の調査となりました。堤脚水路と付近の水路で、ヨシノボリ類、ウキゴリ、フナ類、カネヒラ、ドジョウ、シマドジョウ類等、計19種が確認されました。ブルーギル、オオクチバスが確認された地点もありました。魚類以外にもタイコウチ、コオイムシなどの水生昆虫や、カワニナ類などの貝類等、多くの生物が確認されました。

各水路は流れてくる経路が違うのか、体感でわかるほど、冷たい地点、そうでもない地点、濁りの強い地点、底まで見えている地点と、いろいろありました。うおの会は調査を長年続けていますが、今回のように行ったことがない地点もたくさんあります。「こんなところの調査をしたい」など、ご意見お待ちしております。(文責: 竹元 冴矢)

【今後の予定】

12/15(日) 定例調査(法竜川)

1 月、2 月は勉強会、3 月は総会を予定しています。詳細は会員宛メールでお知らせします。



▲調査の様子(11 月調査)



▲ヌマムツとカネヒラ(11 月調査)



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:橋本 道範

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:柊永 一宏

【活動報告】

■ 2024年 9月 22日(日) 水生植物園(草津市) 参加者 2名
水生植物園の園内を散策。吟行。
鳥丸半島でイナズマロックフェスが行われていて、駐車場に入るまで時間がかかりましたが、園内は空いていて、漏れ聞こえる音楽を楽しみながら秋の植物や夏の名残の睡蓮を鑑賞しました。

【活動予定】

- 2024年 11月 24日(日) 琵琶湖博物館
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。
活動時間 10時 30 分～(16時)
- 2024年 12月 22日(日) 琵琶湖博物館
2025年1月からの活動についてミーティング。
また、スケッチや吟行も行います。
活動時間 10時 30 分～(16時)



※持ち物／スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○博物館 de 俳句

9月22日の活動日に下記の秋の草花を見つけました。

藤袴(フジバカマ)、南蛮煙管(ナンバンギセル)、芒(ススキ)他

俳句をしていて難儀するのが漢字が読めないという局面に出くわすこと。とくに植物や魚の名前に難儀します。電子辞書は常に持ち歩いています。句会のメンバーだって読めないかもしれない、なんて思うときは、わたしはひらがな表記にしています。
また、表現上、これはひらがなが良いと思ったときも。
薔薇や葡萄が漢字で書けるようになったのは俳句のおかげだと感謝？しています。

※写真は水生植物園の睡蓮と藤袴です。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■9月25日(水) 参加者:7名

6月に採集したクルミの皮をなめして柔らかくしました。一方、ワークショップの練習として、クラフトテープでキューブ作り。キューブは難しいので、ワークショップではできないことがわかりました。次回、もう少し簡単な方法を考えることになりました。

■10月9日(水) 参加者:7名

前回なめしたクルミの皮が厚すぎるので、外皮をとりました。ワークショップでは石畳編みにすることに決定。まずはクラフトテープで試作。

■10月26日(土) 参加者:5名

びわ博フェスのワークショップの準備。クルミ、サクラの皮、コウゾ、アカメガシワなど実際に使う材料で試作。樹皮によって色がちがうので、組み合わせてみたり、いろいろ試作しました。

■11月9日(土) 参加者:4名

びわ博フェスの見本作成。何種類か製作しました。

■11月16日(土)びわ博フェス「樹皮を編んでストラップを作ろう」

参加者:5名 体験者:19名

今回の募集は10名だったのですが、材料が残っていたので、追加で受け入れ、最終的には19名の方に体験していただきました。メインの材料はクルミだったのですが、色が黒いのでかわいくなかったのか、白いコウゾや緑のアカメガシワが選ばれる傾向に。みなさん、思い思いの組み合わせでストラップを作って、お持ち帰りいただきました。

【活動予定】

■織姫の会

11月27日(水)、12月7日(土)、1月29日(水)、2月8日(土)、28日(水)



10月26日試作



11月16日びわ博フェス

3月8日(土)、28日(水)

1月11日(土)わくたんと共催「綿にふれてみよう」

(文責:辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2024 年 9 月の活動

○野外調査 野洲川川原にて資料採集

日時: 9 月 24 日(火) 10:00~12:00 参加者 7 名

場所: 湖南市 野洲川新生橋付近の川原

・びわ博フェスのワークショップ及び、12 月のわくわく探検隊、「岩石標本箱を作ってみよう」に使用する岩石を採集した。

○野外調査 比良方面

日時: 10 月 14 日(月) 10:00~15:00 参加者 7 名

場所: 高島市 ①高島市伊黒地区 ②比良花崗岩体正面谷の沢

・①高島市伊黒地区

下流部沢沿いの付加体周辺を調査。泥岩、砂岩、及びそれらのホルンフェルス化したものの転石があり、接触変成した領域が周辺にあると思われる。上流部は、花崗岩地質となり岩盤にペグマタイトも現れていた。上流部の砂防ダムは広い川原となって、流れてきた長石、石英(水晶)、雲母などが多く含まれていた。水流によって出来た川原の地層は、砂礫が流れに向かって鮮やかだった。

・②比良花崗岩体正面谷の沢

沢には「青ガレ」と呼ばれるデイサイト質の火成岩が流れ落ちていた。水に濡れて青くきれいで表面は滑らか、等粒状花崗岩とは違って見えた。

○びわ博フェスに参加

日時:11月16日・17日

場所:琵琶湖博物館 実習室 1 など 参加者 7名

1. ポスター展示 大津の岩石調査隊の活動のようすを、写真とキャプションでお知らせした。

2. ワークショップ 「石を観察して絵を描いてみよう」を、16日、実習室 1にて、10:00から45分ずつ2回実施。

花崗岩、チャート、砂岩、泥岩などの中から一つを選び、じっくり観察した。その後で、石に絵を描いて完成させた。小さな年齢の参加者が多かったが、保護者の方々と一所懸命にとりくんで下さった。

3. 3分間トーク 大津の岩石調査隊の活動内容のお知らせ。

【今後の活動予定】

日時:12 月 14 日(土) 13:00~ 琵琶湖博物館【わくわく探検隊】「岩石標本箱をつくろう」へ参加

以上です。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

■10 月 19 日(土)10:00~12:00 びわ博フェス出展内容の打ち合わせ 参加者 3 名 担当職員2名

11 月に開催される「びわ博フェス」での出展内容について、参加者で話し合いました。ポスター発表のスペースが限られているため、活動紹介のポスターに加えて、メンバーが撮影した写真や大橋コレクションの今昔写真をアルバムにまとめ、長机に置いて来館者に自由に見てもらえるよう計画しました。また、長机には交流用ノートも設置し、来館者が自由に感想や意見を書き込める場を用意することにしました。

■11月9日(土)10:00~12:00 びわ博フェス出展用写真の印刷など 参加者5名 担当職員2名

びわ博フェスに向けてメンバーが撮影した写真を印刷するなど準備作業を行ないました。みなさんの師玉の作品が集まったので、本番が楽しみです。

■11月16日(土)、17日(日)10:00~17:00 びわ博フェス出展および写真撮影 参加者6名 担当職員2名

びわ博フェスでの記録係として、2日間行われたワークショップや館内のようすを撮影しました。また、時折、ポスターの前にも立ち、来館者や他のびわ博フェス出展者との交流も行ないました。フェスには多くの方が参加しており、いろいろと賑やかな2日間でした。

【活動予定】

- 12月 おでかけ撮影会 in 堅田
- 1月 琵琶博画像データベース説明会
- 2月 撮影技術、写真加工技術に関する勉強会
- 3月 総会

※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。

※温故写真新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写真新担当学芸員(金尾・加藤)までご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(7)暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

- ・9月のはしかけ登録講座を経て、新規の入会者1名がありました。学芸員と、どんなことに関心があるか、相談しました。
- ・びわはくフェス(11/16,11/17)にて、ポスター展示を行いました。

【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、近江八幡市内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



(8)古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■「びわ博フェス2024」の準備(1回目)

日時:9月10日(火) 13:00~

場所:琵琶湖博物館 地学研究室 参加人数:2名

活動内容:

「びわ博フェス2024」で、ポスター発表(アトリウム)で活動紹介する際に利用する、化石の展示準備を行いました。これまでの古琵琶湖発掘調査隊の屋外活動で採取した化石の中から、化石の形の特徴ができるだけよくわかるものや、手に持って観察してもらえそうな化石など、展示に使う化石の候補を選びました。メタセコイア球果化石については、縦断面・横断面がわかるものも展示することにしました。作業中、皆で採取した当時のことを思い出し、再度、知識や情報の確認をすることができました。化石標本の中には、採取してから長く時間が経過して化石が壊れやすくなっていたものもあり、貝化石には水で薄めた木工用ボンドを塗り、補強をしておきました。化石標本は、時々、状態をチェックすることも大事で、今後、勉強会の時などに化石標本を利用することで、そのチェックも行うことができるのではと考えています。

■琵琶湖博物館の「びわこのちからチャンネル」(You Tube 動画)の撮影協力

日時:10月13日(日) 9:30~16:00

(10月5日(土)に実施予定でしたが、活動日前日までの天候が良くなかったため、10月13日に延期しました。)

場所:〈午前〉滋賀県湖南市(屋外)

〈午後〉琵琶湖博物館 実習室1

参加人数:6名(午前中5名。午後から1名追加で参加。)

活動内容：

琵琶湖博物館の「びわこのちからチャンネル」(公式 You Tube チャンネル)の、You Tube 動画の撮影に協力しました。午前中は屋外での活動の様子を撮影していただき、午後からは屋内で行う作業を撮影していただきました。

■「びわ博フェス 2024」の準備(2 回目)

日時：10 月 26 日(土) 13:00~16:00

場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加人数：5 名

活動内容：

9 月 10 日に引き続き、「びわ博フェス 2024」での活動紹介のポスター発表で利用する化石の展示準備を行いました。最初に、展示する予定の化石を机の上に並べてみて、全体のイメージを確認し、びわ博フェス当日の打ち合わせを行いました。メタセコイア球果化石については、複数ある標本の中から、縦断面・横断面がわかるものを選びました。縦断面・横断面ではどのように見えるのか、植物化石に詳しいメンバーが説明をしてくれたので、勉強会をしながら選びました。その後、展示する植物化石を見やすくする作業を行いました。ビンの中に綿を詰め、植物化石をビンの内側にセットし、アルコール水溶液を入れるのですが、アルコール水溶液を入れた後にちょうど化石が見やすくなるよう、綿の分量の調節をするのが意外に難しく、何度もやり直さなければいけないものもありました。やり直す場合は、化石を壊してしまわないよう、さらに慎重に作業しました。展示するためのビン詰め標本の作成は、ほとんどのメンバーが初めてだったため、各自、作成技術の習得に努めました。アルコール水溶液につけない植物化石で、乾燥して壊れてしまいそうなものには、木工用ボンドを水で薄めたものを塗って補強しました。



〔展示する化石を顕微鏡で選んでいます〕



〔植物化石をビンに入れて見やすくしています〕



〔綿の分量の加減が難しいです〕

■多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト・多賀町立博物館ミュージアムサポーター研修会

日時：11 月 9 日(土) 9:00~16:30

場所：〈午前〉多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト発掘調査地 (滋賀県犬上郡多賀町四手)

〈午後〉多賀町立博物館

参加人数：3 名

活動内容：

多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトの発掘調査地や多賀町立博物館で行われた研修会に参加しました。午前中は発掘調査地での発掘調査と午後からの珪藻化石の観察のための土を採取しました。午後からは、多賀町立博物館にて、珪藻化石の観察実習と火山灰の観察実習に参加しました。多賀町発掘お助け隊や多賀町立博物館ミュージアムサポーターの皆様と一緒に研修会で、久しぶりにお会いすることができた方々や初めてお会いする方々とも交流することができ、とても充実した楽しい一日となりました。

■「びわ博フェス 2024」への参加

日時：11 月 17 日(日) 13:25~13:50(1 回目)・14:30~14:50(2 回目)

場所：琵琶湖博物館 アトリウム 参加人数：4 名

活動内容：

「びわ博フェス 2024」で、ポスター発表に参加しました。アトリウムに掲示している古琵琶湖発掘調査隊のポスターの前で、活動紹介と化石の展示を行いました。展示した化石は、メタセコイア球果化石やオオバタグルミ殻果化石、スイショウ球果化石などの植物化石や、イシガイのなかまの化石やイガタニシの化石などで、今までの古琵琶湖発掘調査隊の屋外活動で採取してきたものです。来館者の方々に、貝化石などを、直接、手に取って観察していただきながら、古琵琶湖層群についてや展示している化石について説明しました。また、古琵琶湖発掘調査隊の活動についても対話にてお伝えし、来館者の方々と交流することができました。メンバー達は、最初のうちは、うまく説明できるか緊張していましたが、来館者の方々が熱心に説明を聞いて下さったり、興味深そうに化石を観察して下さったことが励みになり、それぞれが自分達の言葉で、化石について説明したり、屋外での活動や化石のクリーニングなどの普段の活動を、楽しみながら行っていることをお伝えすることができました。



〔活動紹介のポスター前に化石を展示しました〕



〔化石や活動の魅力をお伝え中〕

【活動予定】

■古琵琶湖発掘調査隊 総会
日時・場所：未定

【お知らせ】

■現在、古琵琶湖発掘調査隊では、都合により会員の新規加入の募集を停止しております。



(9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員：奥田 岬

■9月28日(土) 道具整備 参加者3名

生活実験工房にて、里山体験教室などで使っている道具の整備を行いました。普段の整備がされていないと活動時に使えなくなることもあるので、のこぎりなど1本ずつ確認しながら手入れしていきました。

また、その後は11月に行われるびわ博フェスで出展するワークショップの打ち合わせを行いました。想定する参加人数や必要物品の確認と、切った丸太の見本づくりを行いました。



■10月12日(土) 里山体験教室 下見 会員7名

この日は10月20日に行われる秋の里山体験教室の下見を行いました。木の実やキノコなどを探しながら、春とは違ったコースを散策しました。落葉が始まっている木もありましたが、紅葉にはまだ早く、きのこもあまり見つかりませんでした。木の実はいくつか見つけることができました。

また、ハンモックづくりの確認や、里山整備活動として切ってもらふ木の確認などを行いました。秋とはいえ良い天気、歩いていると汗ばむような気候でしたが、会員同士わきあいあいと過ごすことができました。



■10月20日(日) 里山体験教室 本番 一般参加者12名 会員6名

秋の里山体験教室の本番が開催されました。夏は中止となってしまったので春以来の開催です。

午前中は森林散策を行いました。アケビやドングリ、クリなどを見つけてながら歩きました。参加者の中にはきのこを見つけるのが得意な方もおられて、下見の時にはなかった(見つけられなかった?) たくさんのきのこを見つけてくれました。中にはオニフスベも。

午後からは里山について知ってもらふためのお話をしたあと、里山整備活動として、過密になってきたエリアの間伐を行いました。のこぎりで木を伐り、整理してもらったところは、見栄えも良くなり達成感を得られるものになりました。最後にハンモックづくりを行い、設置したハンモックに入って心地よい秋の気候を感じることができました。

【今後の活動予定】

12月21日(土) 凧作り・凧あげ

1月11日(土) 里山体験教室 下見

1月19日(日) 里山体験教室 本番



(10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年も昨年に続いての酷暑で、昨年のように1等米の収穫割合が減ったとのこと。夏のウメ、モモに続き、秋もカキ、クリの不作。サクラのなかまやカツラは、水不足と強日光に耐えきれず、夏の間に葉をほとんど落としてしまった。

植物も暑さに強いものしか育たなくなってくるのだろうか。また、花粉を媒介してくれるはずのムシくん達との季節のズレが出てきているのではないのだろうか。植物は、ヒトの食料としても、生態系の一員としても無くてはならないものだけに、なんとなく不安になる春・夏・秋だった。

10月 6日(日) 「持ち寄っての観察」 博物館実習室1 13:30~16:00 ごろ 参加者 4名

この日は、それぞれが持ち寄ったものを観察するはずが・・・、結局9月15日(前回の長浜での水草観察)の水草の実物を、前回の参加不参加にかかわらず、もう一度復習しながら見て2時間が経ってしまった。見たいのものがあって持参頂いたメンバーの方には申し訳ない時間の使い方になってしまった。

前回採集して、この日まで青々と生き残ってくれたのは、ネジレモとマツモ。

マツモは、冬に備えて殖芽が本体から切り離されて漂っている。小さく細かったのが、最近はずいぶん青々として太く大きくなってきた。芦谷先生に質問したら「暖かいしまだまだ伸びて行けそう、とか春と勘違いしているのかも」とのこと。過保護に玄関の中(日当たりが良い)に置いているからかもしれない。とにかく元気に年越ししてほしい。このマツモは、手でつかむと結構しっかりしていて、水から出してもべたべたとはならない。おまけに腐らずに育てやすいとのこと、9月に不参加だったメンバーにも殖芽をおすそ分けして観察することにした。

ネジレモは、雄株の画像と雌花の花茎を押し葉(葉じゃないけど...)にしたもので実や花茎の状態を説明しながら、9月に引き続き再度観察。何度見ても不思議な構造をしている。波のある中で水面まで一生懸命花茎を伸ばす雌花たち、時期を見計らうかのように水中で雄花を放出する雄株、花粉は波に流されてしまわないうちにちゃんと雌花にたどり着けるのか？他の水草の花粉も水面を漂っているのに邪魔されないのか？などなど、不思議さに満ちあふれている！花茎がくるくるになっているのは、雌花が受粉した証拠とのことで、実を割って顕微鏡で見れば中の構造が分かるはずだが、今回は乾燥して残すために、分解はあきらめた。琵琶湖水系の固有種ということもあり、採集した株はこのまま冬越しさせ、春からの芽だしを待ちたい。



すぐだめになるらしい水草類は、9月の帰宅後、押し葉にしてみた。キッチンペーパーにはさんで、新聞紙へ。後は、従来通りの押し葉のやり方でやってみたところ、ヒロハノエビモ、オオササエビモ、ネジレモの雌花と花茎、クロモ(糸状の花茎も花も数個残って成功)、イバラモ、トリゲモは成功した。ホザキノフサモは×失敗×。

トリゲモは、マツモよりもごわごわしていて、水から出して押さえても跳ね返ってくるくらいでしっかり自立している。そのため、乾燥してからでも水に入れて戻せば、なんとなく手触りくらいは戻るのではないかとやってみたが、手触りも形も戻らず、失敗。ワカメやヒジキみたいにはいかないのかあ。ちょっぴりがっかり...

あとは、メンバーが持参した中に、小さいものが浮いていたので、実態顕微鏡で確認。3mmほどの本体は、鱗片状の葉のようなものが重なっていること、根のようなものの先が少し透明で膨らんでいることから、葉っぱの切れ端ではなく、ウキクサのなかまだろうと分かった。これもこれから増えて大きくなるんだろうか。

ここで、時間切れになり、片付けて終了。もっと見たかった...

メンバーが持ち寄ったけど見られなかったものは、後日、タチスズメノヒエと判明した。

11月 3日(日) 企画展示「湖底探検Ⅱ」の見学 博物館館内 10:00~12:20 参加者 3名

この企画展示は、湖底を調査し続けた長年の結果をまとめたもので、水草の繁茂とその影響、人々は昔から水草をどう利用してきたかという内容が主だった。この日は、水草観察の続きで、芦谷先生に解説をお願いした。

オオササエビモやクロモが植生高3m以上にもなること、コカナダモやホザキノフサモの茎が非常に硬く丈夫なこと、水草たちは葉から栄養分を吸収することでアオコの発生をある程度昔から抑えてきたことなど、9月に行ったきれいな浜だけ見ていると想像がつかないお話が多くて驚いてばかりだった。特に、三重県で育った私にとっては、水草が繁茂？ワカメやアオサと同じ状況じゃないんだあ、という不思議さもあった。

そうこうしている間にまたまた2時間が経過(〆_〆)、折角の水草最新研究のパネルに行き着いた所で時間切れ(T_T)。

「あと少しだけ」と、芦谷先生に言って頂き、途中で質問していたマツモとシャジクモ、南湖で見つかったムサシモ、などトピック的なものをかいつまんで教えてもらった。

芦谷先生、お忙しい中、長時間ありがとうございました。グリセリンに漬けた水草もかわいかったです。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 12月 1日(日) 都合によりお休み
- 1月12日(日)「冬芽などの観察」雨天の場合は室内
- 3月以降は未定、※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります。



(11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第78回総会が、9月23日(月・祝)10時から、琵琶湖博物館研究交流室で行われました。参加者は影の会長を含めて会場5名、オンライン6名の計11名でした。それぞれの研究の進捗状況の他、10月に行われる日本珪藻学会研究集会や、11月に行われるびわ博フェスの打ち合わせなどを行いました。

日本珪藻学会第43回研究集会が、10月19日(土)20日(日)の両日、根来健さん(琵琶湖博物館特別研究員/たんさいぼうの会副会長)を実行委員長として琵琶湖博物館で行われました。根来さんの他にも会員の山本真里子さんが実行委員を務め、また7名の会員および元会員がスタッフとして参加、影の会長もシンポジウム企画者として参加するなど、まさにたんさいぼうの会によって運営された研究集会になりました。皆、運営で忙しかったために、たんさいぼうの会名義での発表が1件もなかったのがちょっと残念です。

びわ博フェス(11月16日(土)17日(日)、琵琶湖博物館)では、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」と共にマイクロアクアリウムを両日共に10~12時および13~16時の長時間にわたり占拠して、様々な小さな生き物たちの解説をしました。たんさいぼうの会からの参加人数は、影の会長と了解に所属する会員を含めても3名のみで、全体に「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」に圧倒される格好になりました。ポスター展示では活動紹介のポスターと、はしかけ活動を契機として発見された外来種と思われる珪藻の紹介ポスターの2枚を展示しました。

会員の富さんが投稿していた古琵琶湖層群蒲生層の化石珪藻の論文は、11月初めに査読結果が戻ってきて、現在、修正中です。出版されればたんさいぼうの会会員名義の主著者による21本目の論文になりますが、出版は順調に行っても2025年になりそうです。他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

【活動予定】

12月1日に集まっの活動は予定されていませんが、オンラインで珪藻の詰め込み教育を行おうと思います。これはスバルタ教育で珪藻を教えるものではありません。珪藻の一定倍率の光学顕微鏡写真を、学術誌などの投稿規定で指定された限られたスペースの中に「なるべく学名のABC順に、なるべく隙間なく、なるべく美しく」詰め込む技術を教えるものです。まず、クリスマスの時期までに影の会長から会員に課題を提示し、年明けに影の会長まで提出してもらって、1月中旬にオンラインで講評と改善のための講座を行います。最も上手に詰め込んだ人には、新年恒例となりました影の会長からの特典があります。内容はヒミツ♡(いずれにせよ珪藻に関するものですが)。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(12) たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

10月27日から11月2日にかけて、滋賀県内各地でまとまった雨が降りました。その間、最高気温が20度を越える日が何日あったためか、稲刈り後に溝切りをした水田にできた水溜まりで、ホウネンエビの発生が見られたとの報告も博物館に寄せられたようです。8月に結果報告会を済ませてゆっくり休みを決め込んでいた我々人間たちを横目に、エビ達はちょっとしたチャンスも見逃さず命をつなごうと懸命に生きているようで、頭が下がります。

【活動報告】

2024年10月9日に、台湾から来日された元琵琶湖博物館学芸員のMark J. Grygier博士とお会いして、昨年度近江八幡市安土町内野で1個体だけ採集したカブトエビの標本と、本年度隣接する複数の水田で採集したカブトエビの標本、さらに、昨年度大津市月輪三丁目で採集したカブトエビの標本を改めて顕微鏡で見いただきました。その結果、これらはすべて同一の種(アジアカブトエビ)であることが確認できました。この地域は、近江八幡市で唯一愛知川の水による灌漑が行われている地域です。10月30日に、愛知川用水の内野調整池と、アジアカブトエビが見つかった水田に至る水路網の確認に行ってきました。

博物館の屋上に、カブトエビ飼育実験のコンテナ(ミニ水田)を置かせていただいています。10月26日に稲穂を刈取り、排水口を開けて落水後、土を掘り起こして砕き、アクリル屋根をつけて土の乾燥にかかりました。少し乾燥が進んだ11月12日に、さらに土を掘り起こして細かく砕く作業を行いました。

11月16日と17日に行われた琵琶博フェスでは、本年度までの調査で得られた滋賀県内のエビ類の分布図を掲載したポスターを展示しました。

【活動予定】

12月15日に琵琶湖博物館で開催される第15回琵琶湖地域の水田生物研究会で、本年度の調査結果に基づくポスター発表をする予定です。

(山川 栄樹)



(13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:大久保 実香

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆10月の活動 10/16(水) 8組(幼児12名、大人8名)

ちこあそで育てているサツマイモ。しかし畑は半日日陰で、植え付け後に葉が虫にかじられたりと心配でした。芋の葉っぱは小さくあまり茂っていません。しかし、少しずつ寒くなり秋の足音がしているので、そろそろ大きくなっているだろうと予想して、芋掘りをしました。スコップで少しずつ掘ると、かわいい芋が見つかります。小さな子どもたちが掘って持ち上げるにはちょうどいい大きさです。去年はネズミサイズばかりでしたが、それよりは大きな芋がたくさん収穫できました。

子どもたちと網を持って原っぱへ出かけると、草の間でまだバッタたちがぴよんぴよん跳んでいました。そろそろ寒くなる前、虫たちも秋を生きているようです。

◆びわ博フェスティバル 11/16(土) (午前15名、午後35名)

ちこあそ特別版として、ネイチャークラフトを行いました。当初用意したのは、「葉っぱのモビール」。葉っぱを拾って糸でぶらさげて、枝でつなげてユラユラと揺れるものです。いくつか作っていくうちに、枝と毛糸を利用したゴッドアイづくりが始まりました。枝を十字に組んで毛糸を巻き付けていくネイティブアメリカンの伝統的なクラフトです。自分で枝と毛糸を選んでひたすら巻きつけるだけなので、小さな子どもも大人もはまっていました。葉っぱの装飾に用意した型抜きパンチも、カエルや四葉のクローバーなど特徴的な図柄なので、こちらもひたすら型抜きする子どもも。モビールから、いろんな工作に発展して楽しめた1日でした。

フェスステージ発表会では、ちこあその特徴や面白さ、子どもの成長をお話しました。またちこあそから発展して、びわ博保育園から小学校、中学校へと博物館で子どもが学び続ける場も提案させていただきました。

◆11月の活動 11/20(水) 7組(幼児10名、大人9名)

朝が冷えるようになりましたが、火を起こすにはちょうど良い気温。先月掘ったサツマイモを新聞紙でくるんで、水に浸して、さらにアルミホイルにくるみ、火の中に入れました。おこした炭の上において、時々火吹き竹でフーフーして、待つこと1時間。甘い香りがしてきました。イチイガシの実もたくさん落ちていて、かごいっぱい拾いました。畑に元気いっぱい育ったキクイモの実も掘りました。



10月 お母さんと芋掘り



小さいですが掘れました



びわ博フェス、楽しい工作に



11月 キクイモを掘りました

今回のちこあその報告は、代表の池田勝が担当しました。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12月	12月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
2025年 1月	1月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆつくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

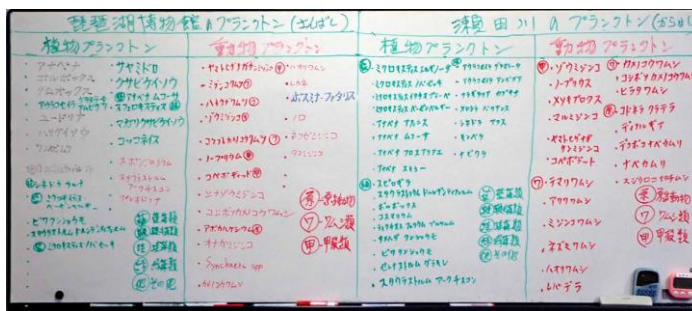
【活動報告】

■ 10月14日(月) 参加者:7名、学芸員:2名、見学:1名

博物館付近や瀬田川のプランクトンを観察しました。今回は久しぶりにアポカルケシウムを見ました。付着性の纖毛虫ですが基質からはがれたものがプランクトンネットに入ったようです。



Apocarchesium rosettum



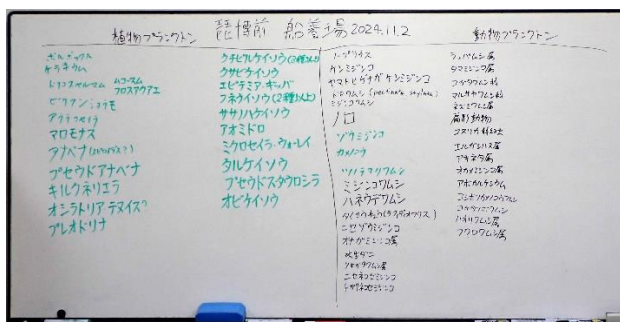
10月14日に観察したプランクトン

■ 11月2日(土) 参加者:5名、学芸員:2名

琵琶湖のプランクトンや付着藻類などを観察しました。サンプル採集時、プランクトンネットは岸からを投げているのでたいていの場合は底生動物も入ってきます。今回はアブラミズやユスリカの幼虫が入ってきました。



アブラミズ属の1種



11月2日に観察したプランクトン

■ 11月16日(土),17日(日) 参加者:5名

びわ博フェスでワークショップを行いました。当会の催しは例年と同じくマイクロバーで当会のメンバーが微小生物の紹介、解説を行うというものです。いつもは琵琶湖のプランクトンを中心に展示しているマイクロバーですが、ワークショップでは粘菌や付着生物など一風変わった生き物の紹介も行いました。普段と違う展示に来館者だけでなく交流員の方にも楽しんで頂けたようでした。



粘菌。ベテラン会員の語り口も相まって大人気でした。



プランクトン紹介の様子。16日はベテラン会員、17日は若手ホープが解説を行いました。

【活動予定】

次回活動日:12月7日(土):実習室1

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(15) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 渡邊 俊洋、桑原 康一

【活動報告】

11月16日 びわ博フェス2024 ワークショップ「腕にはめる日時計を作ろう」

参加数：一般参加15名(保護者を除く)、びわたん4名、職員2名

今年は腕にはめる腕時計型の日時計を作り実際に屋外に出てその使い方を体験するというワークショップを行った。ワークショップの前に調べると最近の小学校では日時計について教わる機会は殆どないようである。冒頭で参加者に聞くとほとんどのこどもが日時計を知らなかった。腕時計型のアイデアは滋賀県立美術館の発案によるもので、美術館のボランティアとの交流から協力を得てアイデアをいただき実現した。

構造はいたってシンプルで太陽光によって影を作る突起が形成される文字盤を制作し、それを布製のバンドに接着することで完成できる。このとき文字盤のデザインはこども達の自由な発想により色鉛筆で絵を描いたり、シールなどで飾り付けを行い、どこにもない自分だけのオリジナル日時計が完成できる。

完成したら屋外に出て、お日様の下で日時計を体験する予定だったが、あいにくの曇り空で体験することができなかった。そのため屋内で太陽光に代わる照明スタンドと擬似的な「北極星」を椅子に標示し日時計の使い方を体験してもらった。しかし、文字盤上の方位磁石の平衡を保ちながら腕時計を装着した自分の腕を北極星方向に向けることの重要性をなかなか理解してもらえなかった。保護者には理解していただけたようなので帰宅後に期待したい。また太陽光がないため文字盤上の突起の影の形成がシャープではなく十分な体験ができなかった。この点が今後の課題と強く感じた。



ほねほねくらぶ

(16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員: 半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■9月28日(土) 参加者:5名

アライグマの解剖、タヌキの解剖、イタチの解剖、キツネの組み立て、を行いました。

■10月6日(日) 参加者:4名

タヌキの解剖、カメの骨の組み立て、トビの徐肉、キツネの骨の組み立て、シカの骨の組み立てを行いました。

この日は博物館のYouTube 動画のために骨格標本の制作工程の様子を撮影していただきました。



▲クリーニングを行ったバイカルアザランの大腿骨のスケッチです。

■10月26日(土) 参加者: 4名

イタチの解剖、キツネの組み立て、バイカルアザラシの骨のクリーニングを行いました。

■11月3日(日) 参加者:2名

バイカルアザラシの骨のクリーニング、キツネの骨の組み立てを行いました。

■11月17日(日) 参加者:3名

琵琶湖博物館で開催された、びわ博フェス 2024 において来館者の方との交流活動を行いました。

私たちは大人のディスカバリールームを使用させていただいて、シカの骨を触ってもらうプログラムを行わせていただきました。

ちょうど交流活動中におたずねくださった方が、最近拾われた骨が何の骨かお尋ねくださったのですが、実物を見せていただいたら、はっきりと断定する自信は持てなくても、大まかな仲間やどの場所の骨かを思い浮かべることができました。これはこれまで活動を行って来た中で、自然に得た経験で思い浮かんだのだと思うと、ただ楽しんで続けてきた事でも、何か身についている事があり、それが誰かの役にたったというのはいずれいい事でした。

【活動予定】

12、1月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 33名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■9月29日(日) 午前 参加者: 10名

活動内容:生水の郷「針江」見学ツアー(高島市新旭町)

今回は高島市新旭町「生水の郷 針江」見学ツアーに行きました。初めての企画となります。

琵琶湖博物館でも映像が流れることがありますが、新旭町針江地区の湧き水を昔から生活に利用している「かばた」を生水の郷委員会の方に案内して頂きながら、見学してきました。かばたには「外かばた」と「内かばた」がありますが、見学できるのは「外かばた」の方です。針江に住まわれている方の家のお庭に入って見学させて頂くので、とても貴重な体験です。針江地区に流れる「針江大川」では、梅花藻の花が咲いていたり、小鮎が泳いでいるのを見ることができました。植物や魚に詳しいメンバー達はとても興味深く観察させて頂きました。

【参加者の感想】

- ・映像で見ていた「かばたのある暮らし」を実際に見学、水に触れ、体感できて自然の恵みを感じました。
- ・年4回の川の清掃など守っている方のご苦労も驚きでした。鯉だけでなく、小鮎等の観察も出来ました。
- ・かばたに飼われている鯉の下を、小さなヨシノボリが泳いでいる様子が個人的に針江の風趣を感じたところです。
- ・水が本当にきれいでした。集落の景観もきれいでした。鮎が遡上する場所、こうした環境を守る針江の人々の活動があるから、今もかばたが生きていると感じました。
- ・何度も針江に来ていますが、改めてガイドさんに案内していただくといろんな発見があり、水を守ることの大切さを知りました。



■11月4日(月) 午前 参加者: 6名

活動内容:柿酢の勉強会(琵琶湖博物館 生活実験工房)

以前も発酵食品の勉強をしてきた緑のくすり箱ですが、今回は「柿酢作り」における発酵の仕組みを学びました。メンバーの中に理科の先生だった方がおられるので、アルコール発酵と酢酸発酵の化学式など、しっかりと授業をしてくださいました。

各自が小さな瓶を煮沸したものと柿を準備してきました。甘柿、渋柿など様々でしたが、まずは糖度計で糖度を測りました。初めて柿酢を作るメンバーは、まず甘柿より渋柿の方が糖度が高いことに驚きました。(甘柿は14度程度、渋柿は20度程度。渋柿はタンニンのせいで渋く感じられる。)柿は、小さくカットして瓶に入れ、さらに潰していきます。熟している柿ほど潰しやすかったです。

カビが生えてしまうなど、失敗しても良いように小瓶で試してみることが大切と教わり、家に持ち帰り、PH試験紙などを活用しながら、グループLINEでその後の各自の柿酢の様子を報告しました。その後、通常は捨ててしまうような吊るし柿の皮から柿酢作りに挑戦しているメンバーもいました。

【参加者の感想】

- ・柿酢は早速気泡が出てきて今後どうなるのか楽しみです。
- ・発酵は身近にあるのに奥深いです。
- ・渋柿のほうが糖度が高いのを初めて知りました。観察楽しみです。
- ・今回は甘柿でしたが、渋柿でしてみたくまりました。



■11月4日(月) 午後 参加者: 6名

活動内容:流木クラフト作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

「かばた」見学で高島市に行った帰りに流木を探しに行き、拾ったもので作品作りを行いました。流木は思っていたより硬く、木工が初めてのメンバーは四苦八苦しながら作業していました。木工に慣れているメンバーはとても楽しく作業していました。長い間、川や琵琶湖を旅してきた樹木が、打ち上げられてたどり着いた流木は、自然が作ってくれた形で、そのままでも趣があります。

各自、エアープランツや、多肉植物、コケなどをあしらひ、素敵な作品ができました。



■11月12日(火) 午前 参加者: 6名 (一般の参加者:15名程度)

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(琵琶湖博物館 生活実験工房)

秋開催の「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」は、今年度もモミジバフウの蒸留を実施しました。蒸留は紅葉した葉っぱちぎって使いましたが、少し甘いようないい香りがしていました。博物館のフウは緑色ですが、ちょっと違って、さわやかな青りんごに近いような香りがしていました。

今回は琵琶湖博物館の展示交流員さんが研修として参加して下さったり、県外から「ずっと来たかったんです」と言って来られた方もいっしょって、ワイワイにぎやかな会になりました。

参加者の方に、一番初めに蒸留して採れた蒸留水、二番目、三番目と、瓶に分けたものを順番に匂いを嗅いでもらって、それぞれ好みが分かれたのが面白いと感じました。香りの感じかたや好みは人それぞれで、やはり心地よいと思う香りを選ぶことが大事なのだと思います。

モミジバフウの蒸留の隣では、メンバーが楠の蒸留を、手作りの蒸留器で行ってくれました。しっかりと結晶(樟脳)が採れたので、エタノールに溶かしてアロマスプレーに入れてみました。樟脳をアロマスプレーに使うのは、初めての体験だったので面白かったです。樟脳といえば強烈な防虫剤の匂いといった印象がありましたが、採れた樟脳は、スツとした香りの中にも少し甘さも感じるととても爽やかな良い香りでした。



■11月12日(火) 午後 参加者: 5名 (ワークショップ参加者:30名ほど)

活動内容:びわ博フェス「匂い袋を作ろう」準備(琵琶湖博物館 生活実験工房)

緑のくすり箱では、昨年度から乾燥したハーブを利用した活動をいろいろと企画し、実施してきました。

今年度も「お香作り」などをしましたが、「びわ博フェス」では、簡単に作れて楽しい「匂い袋」を作るワークショップを開催しました。好きなハーブ(香料)を布袋に入れる匂い袋は、通常は「白檀」や「丁子」を使いますが、今回は手に入れやすいハーブを準備しました。準備したのは、ラベンダー、ローズマリー、ヨモギ、ヒノキ、和ハッカです。ローズマリーとヨモギは琵琶湖博物館の周辺で採取したものです。

受付時間になる前に、行列ができて、あっという間に整理券がなくなっていました。参加してくれた方たちは、ほとんどが家族連れで、特に女の子のお子さんご家族が多かったように思います。

「平安時代のお姫様になった気分で、匂い袋を作って身につけてみて…」お子さん達にはそんな言葉をかけてみました。メンバーが、ハーブについて丁寧に説明し、匂い袋に入れるハーブを選ぶときに、参加者の方たちに、しっかりと寄り添ってくれたのが良かったと思います。香りが少し弱いと感じたら、少しアロマテラピーで使う精油をつけていただきましたが、精油やオレンジやレモンなど柑橘系の香りがお子さんには人気がありました。

匂い袋は、綿を入れて少しふくらさせますが、その綿は、メンバーが育ててくれた綿花を提供してくださり、種も入っているものです。参加者の子供たちは、その種にも興味を持ってくれていて、「育ててみる」と言っていました。自分で育てた綿花で、また匂い袋を作ってくれたら素敵だなと思いました。

今回のワークショップはちょうどよい人数で良かったと思いますが、満員になりお断りするお客様もいて、申し訳なかったです。また皆さんが楽しんでいただけるワークショップを企画できたらいいなと思いました。

【参加者の感想】

- ・参加者の皆さん、楽しんで頂けて良かったです。笑顔がいっぱいでした。
- ・お父さん、お母さんも楽しんで作っておられました。喜んでいただけて良かったです。
- ・事前準備をしていたおかげで、ワークショップがスムーズにできました。



【活動予定】

- ・12月8日(日)10:00～15:00 しめ縄作り(生活実験工房)



(18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■9月14日(日)10～14時 参加者:11名 水口町名坂大池寺周辺

この日も相変わらず残暑が厳しく、屋外での調査は熱中症を警戒しつつ、ゆっくりと休憩時間を設けながら行いました。大池寺周辺にその名の通りため池がいくつかあり、そのためトンボが数多く見られました。その他の昆虫類は暑さのためか少なく、まだこの時期はライトトラップの方が良いように思われました。なお、水生昆虫には良さそうなポイントではありました。



■10月19日(土) 10～11時 参加者:2名 琵琶湖博物館
びわ博フェスの準備でしたが、メンバーの参加は2名でした。
当日の土壌中の昆虫のリハーサルも出来ずに準備は終了したので、
11月9日に生活実験工房でリハーサルを行うことにしました。



また、「虫架け通信」72号、73号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

今年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 27名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■9月28日(土) 10:00~12:00 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

内容:①屋外展示のPR策の一つとして「森の探検マップ」子供版(めざせ!フォレストマスター)の検討を行っていたが今回は実施に向けて該当現場で除草や植物名の表示を行った。今後、びわ博の了解を得てC展示室で運用を開始する予定である。②14:35~14:40 対面による「はしかけ登録講座」に1名参加した。

■10月12日(土)、10月26日(土)、11月9日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)延べ16名 (博物館職員)林

内容:①びわ博フェス2024の検討

ポスターは変更なし。3分間トークに参加。ワークショップは「めざせ!フォレストマスター」のクイズラリー版とし昨年のクイズラリーを部分改定することにした。新たな試みとして以下を実施することにした。

- ・参加者を増やすため回答者にアラカシ、シイ、マテバシイ、コナラなどのどんぐりをプレゼントする。
- ・どんぐりの利用方法としてコマ、ヤジロベイ、リースや顔の絵付けをしたものを受付場所に展示する。

②「めざせ!フォレストマスター秋版」の進捗状況

C展示室で10月6日から運用開始した。C展示室の用紙を設置したコーナーはほとんどが素通り状態で手に取ってもらえそうな気配がなかったので10月14日にアトリウム自動扉横に追加で設置をした。

その後用紙の減り具合を見るとレベル1を中心にぼちぼち利用してもらっているようである。現行秋版の設定季節は9~11月頃で今後利用状況を見ながら冬版の作成を検討する。

■11月17日(日) 10:00~15:30 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

内容:びわ博フェス2024に参加

10~12時に受付所や問題パネル設置などの準備を行った。11時55分から「フェスステージ発表会」に参加し活動紹介と「つながることのできたこと」について会員のMさんが発表した。

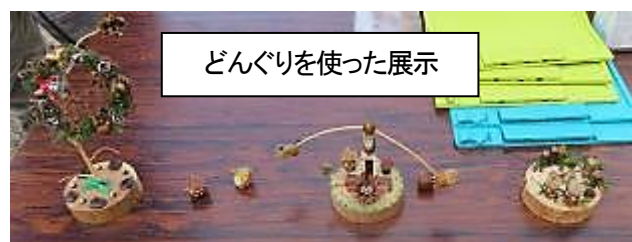
ワークショップ「めざせ!フォレストマスター」は個人またはグループでそれぞれのペースで樹冠トレイルと屋外展示を歩いて、9つのクイズにチャレンジしてもらうもので現地受付のみで参加してもらった。雨の予報であり予定を早めて12時過ぎから開始し15時頃に終了した。幸い雨は降らずクイズ回答者は小学校低学年から幼児が多く150人に達し、その家族まで合わせるとおおよそ400人前後がクイズラリーに参加してくれたものと思われる。今年から始めたどんぐりのプレゼントは好評であった。



C展示室



受付所



どんぐりを使った展示

【今後の予定】

■12月14日(土)10:00~12:00 集合場所:研究交流室 内容:木の実採集など
(12月は1回のみ)

以上

【活動報告】

琵琶湖梁山泊は、9月のはしかけ登録講座で新入会員を迎え、活動を再開しました。微小生物、特にミジンコに関心があるようで、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」にも入会して研究を始めています。まだ個人活動をどのように進めるかを模索している段階ですが、早速、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で同年代の微小生物好きに会い、情報交換を始めたところです。11月16日(土)、17日(日)の「びわ博フェス」では、ポスターを一枚、掲示したのみです。

【活動予定】

引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展すぎて先生の手には負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずは上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ！



(21) サロン de 湖流

【活動報告】

■ 11月16日(日)びわ博フェス参加

場所: 琵琶湖博物館アトリウム

参加者: 1名 (はしかけ1名)

「フェスステージ発表会」で「琵琶湖の深呼吸」に関する実験を実演しました。

【活動予定】

■ 今後の方向性については、メーリングリストなどで改めて議論を進めます。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告】

■ 令和6年9月12日(木)9:00-12:00 晴 参加者 7名

今回は旧愛東町の南東端に位置する愛東外町(あいとうとのちょう)を訪問した。

愛東外町は、旧愛東町の南東端、愛知川低位段丘の最上流部に位置している。妹交差点でひととき目立つ河岸段丘を左に見て、県道217線を永源寺方面へ東進する。青山町、小倉町を過ぎて百済寺方面から来る県道508号線との交差点が愛東外町の入り口である。交差点脇に賽の河原の地蔵が迎えてくれ、集落に入ると直ぐ左手に菅原神社が鎮座している。

集落内に地蔵が三ヶ所、山の神が東・中・西と三ヶ所、津島詣関係が三ヶ所設置されていたのを確認した。山口城は愛東外町地区の東外れ、町内北側に連なる山裾から南西に突き出した丘陵の先端部を利用して築かれた城である。近江山口城址(外村城)年代は不明であるが、遺構として、曲輪、土塁、空堀、石垣が残っているという。東と西側は谷で急斜面となっているが、北西に延びる支尾根を「掘り切る」ように長い空堀と土塁が築かれていた。主郭東側には、土留めの石積みが残っていた。また、高台の下部の平らな土地があり「馬場」と呼ばれる、馬置き場と考えていいのでは。

次に曹源寺を訪ねた。庭園内の石塔宝塔、宝篋印塔を見学し、境内裏に河岸段丘の崖が迫っていることも確認した。集落は河岸段丘の中段部に位置し、集落の北側が20m程度高さの河岸段丘最上部の崖で、段丘上部には水田が広がっている。一方、道路を隔てて南西側には愛知川土手に向かって、段丘最下段の水田が広がる。その昔は愛知川の川底が現在より相当高かったらしく、長い年月を掛けて水の流れが徐々に土地を削り、段丘を作って行った道筋を思い起こさせる。と同時に営々と続けられる人の営みが今につながっていたのだと強く感じる。

愛知川は、この辺りまで遡ってくると、谷が深くなって、外井の取水口があったと言われる土手から愛知川に流入する支流水面まで10m近くの高低差がある。そのため、愛知川の川底もこの程度まで高かったのかも知れない。今回、山間部から平野に流れ出す川が作る河岸段丘の景観を確認することができた。農業用水は、主に愛知川から水を引き込んでいたと思われる。水道

敷設以前の生活用水は井戸水で、愛知川の伏流水を使っていた。現地調査時に、道路際の玄関前にガチャポンプが設置された井戸も確認できた。



集落入口賽の河原地蔵



外井口跡の祠

■令和6年 10 月 17 日(木)9:00-11:2:00 晴 参加者 7名

今回は下中野町を訪問した。

下中野町は、旧愛東町のほぼ中央に位置している。百済寺方向に直進している車道をバイパスと称され、集落の中を通り抜けている道が昔の街道だという。集落への分岐点の入り口に大きな集落全体の案内板がある。八幡神社の社殿主棟には、左三つ巴の紋が飾られていた。前の拝殿は最近になって新しく改築されたようである。八幡神社の背後の森はそのまま集落から一段高い段丘上の田地につながっていて、下中野の集落はその段丘下にまとまっている。町内の耕作地は北から南方向に下がる、なだらかな河岸段丘地域に広がっている。集落から少し北に離れた工場に隣接して、灌漑用 1 号揚水機場と貯水槽が設置されている。2 号機は見学できなかったが、3 号機はさらに上部の新溜堤防下にあった。ここは貯水層が無いようで、揚水を直接田地に配水している様子であった。新溜は内側コンクリート製のしっかりとした堤防でできており総貯水量は 1.9 千 m^3 と記されていた。この辺りからなだらかな段丘で下中野町域の田地と集落を見下ろすことができた。



一号汲み上げ揚水機



三号汲み上げ揚水機



揚水機横の貯水槽

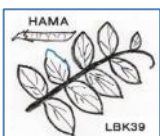


新溜全景



新溜堤防よりの耕地全景

執筆者 小篠



(23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

*2024 年9月 20 日(金) 9 時 30 分~11 時30分

天候:晴れ 気温:31℃(9 時 30 分現在) 今日の琵琶湖:水位-31cm 参加者:4名

観察状況

* 今日の新海浜の状況は西よりの風が吹き、空は真夏模様。琵琶湖の水は澄み静かでガラスのようにきれい。

* 対岸の山々もはっきりと見える。* アメリカネナシカズラは見当たらない。ヒガンバナが咲き始めた。

* 西寄りの風は保護区内に届かず、むし暑い作業日。

定点観測



今日の新海浜



ハマエンドウ



ハマゴウ



取り替えた看板

活動内容

1. 『海浜植物守りたい』の看板取り替え。
2. レンゲソウ畑の草取り。
3. 保護区内除草(カヤツリグサ・ガガイモ・ツルニチニチソウ他)

海浜植物

- ハマエンドウ : すっかり夏枯れしているが、ハマゴウの付近や松の下等はツルができ成長している。
ハマゴウ : 浜に伸びた枝には花が数本見られる。大方の枝に種がついている。
ハマヒルガオ : あちこちに広がっている。葉も大きくなっている。



ハマエンドウ:草との共存で
背も高く伸びている



琵琶湖に向かって伸びる
ハマゴウ花も咲いている



ハマヒルガオ
葉が大きくなった



ヒガンバナが咲き始めた

***2024年10月01日(火) 9時30分~11時30分**

天候:晴れ 気温: 25℃(9時30分現在) 今日の琵琶湖:水位—40cm 参加者:6名

観察状況

- * 本日、新メンバー入会。自己紹介と活動内容の説明の後、早速作業に参加
- * すっかり秋。空も琵琶湖も青一色。琵琶湖の水は澄み波も穏やか。
- * 対岸の山々は少しくすんでいる。伊吹山も見えない。
- * 活動区域外にアメリカネナシカズラが1箇所除去した。
- * 伐採が必要な松枯れが進んでいる。処理ができずどうしたものか?
- * 爽やかだが作業をすると少し汗ばむ作業日。

定点観測



写真左より

- * 今日の新海浜
- * ハマヒルガオの生育域
- * ハマゴウの生育域

活動内容

1. ミーティング、
2. 保護区内除草(カヤツリグサ・ガガイモ・ツルニチニチソウ他)
3. アメリカネナシカズラ駆除(活動区域外)

海浜植物

ハマエンドウ : 大分枯れて地面が見えてきた。ハマゴウの付近や松の下等は緑も濃い。あちこちの新株も生長している。

ハマゴウ : 大分枯れてきた。地面が見えてきた。花は数本見られるが、枝についた種は茶色くなってきた。

ハマヒルガオ : あちこちに広がっている。葉も大きくなっている。



ハマエンドウ
新芽が出てきているが弱々しい



ハマゴウ
花も種もつけている



ハマヒルガオ
葉が大きくなった



アメリカネナシカズラ
活動区域外(駆除済)

***2024 10月18日(金) 9時30分～11時30分**

天候:曇り一時小雨 気温:24℃(9時30分現在) 今日の琵琶湖:水位—49cm 参加者:4名

観察状況

* 新海浜の状況:対岸の山々は霞んでいる。伊吹山の山頂付近は見えない。

* 活動区域外にアメリカネナシカズラ見つからず。* 松枯れが進んでいる。

* 作業をすると少し蒸し暑く汗ばむ作業日。

定点観測



活動内容

1. ミーティング
2. 保護区南側を刈払機で草刈り
3. レンゲソウ畑整地草取り、水撒き後種まき
4. 保護区内外除草(カヤツリグサ・チガヤ・ツルニチニチソウ他)

海浜植物

ハマエンドウ : 大分枯れて地面が見えている。

ハマゴウ : 大分枯れてきた。花が未だ数本見られる。

その他連絡事項

* 11/16(土)、17(日)琵琶湖博物館で「びわ博フェス 2024」が開催されます。「海浜植物守りたい」でも例年展示している模造紙2枚を掲示します。

***2024 年 11 月 05 日(火) 9 時 30 分～11時30分**

天候:曇り 気温:17℃(9時30分現在) 今日の琵琶湖:水位—33cm 参加者:6名

観察状況

* 新海浜の状況:波の音も高く、風も強くて寒さと秋の深まりを感じる。雲が多い秋空で琵琶湖は荒い波が寄せている。

対岸の山々はくすんでいる。伊吹山の頂が少し見える。

* 活動区域外にアメリカネナシカズラが1箇所。除去する。

* 当初は寒く感じたが保護区域は風が遮られちょうど良い作業日。

定点観測



今日の新海浜



ハマエンドウの生育域



ハマゴウの生育域

- 活動内容** 1. ミーティング 2. 保護区内外除草(スイバ・コマツヨイグサ・ツルニチニチソウ他)
3. ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側) 4. 通路の拡張(東側のロープの外側)
5. アメリカネナシカズラ駆除(活動区域外)

海浜植物

ハマエンドウ : 雨が降ったからか全体的に生き生きと緑も濃い。新しくできた株も生長している。
枝分かれした株は薄い緑だがツルを伸ばしているものも多い。

ハマゴウ : 大分枯れてきて種も黒くなりかけた。花は見当たらない。

ハマヒルガオ : あちこちに広がってはいるが葉が黄色くなりかけた。



ハマエンドウ
新株に新葉が広がっている



ハマゴウ
種も黒くなった



ハマヒルガオ
葉が黄色くなった



レンゲソウ
目が出てきた

***2024年11月15日(金) 9時30分~11時30分**

天候:曇り 気温:17°C(9時30分現在) 今日の琵琶湖:水位-37cm 参加者:5名

観察状況

- *新海浜の状況:波は静かに浜に寄せている。水面はガラスのようだ。曇り空で対岸の山も見えない。
- *アメリカネナシカズラは見つからなかった。
- *少し肌寒く近くに冬の訪れを感じさせる作業日。

定点観測



今日の湖岸



ハマエンドウ(保護区域)



湖岸のハマゴウ

- 活動内容** 1. ミーティング、2. 保護区内外除草(コマツヨイグサ・ツルニチニチソウ・チガヤ、他)
3. ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側) 4. 通路の拡張の続き(東側のロープの外側)

海浜植物

ハマエンドウ:全体的に生き生きと緑も濃い。新しくできた株も生長してツルも伸ばしている。保護区西側のチガヤに囲まれたハマエンドウは背も高く葉も大きい。松の伐採で直射日光が心配だったがチガヤと共存して大きく生長している。
ハマエンドウ(緑)と落ち葉(茶色)とのコントラストがきれい。

ハマゴウ:葉をつけている株も少なくなり全体的に枯れてきた。種が地面にたくさん落ちている。活動外の西側の浜にはまだ花も見られた。

ハマヒルガオ:あちこちに広がってはいるが全体的に黄色くなっている。

特記事項

ハマエンドウの生育環境の比較(考察)

- (1)保護区域内は地表(地面)に這った環境で生育している。
- (2)保護区域外(保護区域隣り)では生えているチガヤやハマゴウにツルが巻き付いて大きく成長している。

(11月15日 約40cm) < つる巻写真参照 >

(考察)エンドウの特性を考慮すると支柱(ハマゴウなど)に巻き付いた方が大きく成長するのではないかな。
 ……観察、記録を続ける事にします。



ハマエンドウ（地表）



チガヤ(支柱)につる巻で生育



活動区域外西側の浜のハマゴウの花



全体的に黄色くなったハマヒルガオ

以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12 月～2 月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
 必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 岩石標本箱をつくろう！	いろいろな石を観察して名前をつけて自分だけの岩石標本箱をつくろう！	2024 年 12 月 14 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖博物館 実 習 室 1、	※先着 ※雨天決行
ちこあそ・12 月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 12 月 18 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験 工房	※ 事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。	2024 年 12 月 22 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖博物館 生活実験 工房	多少汚れてもよい服装をご準備下さい。 ※要事前申込

【わくわく探検隊】 綿にふれてみよう！	昔の道具を使い、綿花から糸をつむぐ体験をします。当時の人々の知恵や努力を感じながら、綿がもつ自然の柔らかさに触れます。	2025 年 1 月 11 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実 習 室 2、生活 実験工房	※先着 ※雨天決行
ちこあそ・1 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2025 年 1 月 15 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
【わくわく探検隊】 水鳥を観察しよう！	双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たちの様々な違いに気づくことができるプログラムです。	2025 年 2 月 8 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実 習 室 2、C 展示 室、樹幹 トレイル	※先着 ※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2025 年 2 月 9 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	多少汚れてもよ い服装をご準備 下さい。 ※要事前申込
ちこあそ・2 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2025 年 2 月 19 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを行います。	2025 年 2 月 23 日 ～3 月 9 日		左記期間のう ち任意の時間 (1時間30分程 度)	オンライ ン	※登録にはボラ ンティア保険料 350円が必要 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

10 月 13 日に晩生品種の稲刈り・ハサ掛けを実施しました。
良いお天気に恵まれ、お陰様で、無事に行事を終えることができました。

参加者の方へ、魚のゆりかご水田のお話をさせていただき、
身近な水田に興味を持っていただく良い機会となりました。

参加者の皆様には、普段体験できない稲刈り・ハサ掛けを
楽しみながら体験していただくことができたようで、良かったです。



▲魚のゆりかご水田のお話の様子

今後のイベントは以下のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付 10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

12月22日(日) しめ縄づくり

2月9日(日) わら細工



▲ハサ掛け(稲を束ねる作業)の様子

担当:環境学習・交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。